

# 現代中国語移動表現の動詞枠付け的性質

——統語的証拠からの考察と日本語との対照分析——<sup>1)</sup>

杜 天 邑

## Abstract

Motion events are expressible not only in Japanese and English but also in other languages, and there are considerable differences in how they are expressed among the languages. According to Talmy (1985: 60-61), the motion event consists of Motion, Figure, Ground, Path, Manner, and Cause. In addition, which of these elements should be encoded in the main verbs will determine the classification of the language.

Talmy (1985) identified two types of languages, satellite-framed languages and verb-framed languages, based on whether Path is encoded in a verb or not. In satellite-framed language, the main verb expresses information about Manner, and Path is encoded in a satellite element. Thus, in English, Path is encoded in prepositions or particles. English is therefore a satellite-framed language. Furthermore, in verb-framed languages, Manner is expressed in a subordinate structure, while the main verb encodes the core information of Path. In Japanese Path is encoded in verbs. Japanese therefore a verb-framed language.

This paper aims to clarify the typological characterization of Chinese motion event constructions. Chinese expressions are analyzed on the basis of syntactic and semantic evidence such as distribution of the perfect aspect *le*, the scope of negation, and answer to of interrogative sentences. Observing these phenomenal syntactic properties of motion event constructions, I argue that Chinese exhibits both satellite-framed and verb-framed motion event constructions and that the relevant factor is the categorial status of directional complements.

## 1. はじめに

移動表現は日本語や中国語に限らず、全ての言語に普遍的に存在すると思われるが、言語によって、表現方法にかなりの違いがある。Talmy (1985) の空間移動の類型論によると、英語は衛星枠付け言語に属するのに対して、日本語は動詞枠付け言語に分類されている。そのうち、英語では、中核的スキーマ (core schema) <sup>2)</sup> である経路が前置詞、不変化詞などの衛星と呼ばれている要素によって具現化している。このように、経路のような中核的スキーマが衛星によって具現化する場合、衛星枠付け言語と見なされる。一方、日本語のように、経路が主動詞によって具現化する場合、動詞枠付け言語に分類されている。

本稿の構成は以下の通りである。まずははじめに、第2節は移動表現の分類、方向補語、中国語の分類に関する先行研究についての説明である。第3節は完了アスペクト「了」の分布から、動詞は何かについて論じる。第4節は否定のスコープから主要部を明らかにする。第5節は疑問文に対する応答から意味の中心を考察する。第6節は中国語と日本語、英語との対照である。第7節は各節で議論した内容のまとめである。

## 2. 先行研究

この節では、先行研究にある衛星砕付け言語と動詞砕付け言語、均等砕付け言語の分類から、先行研究と本研究との結びつきを見て、さらに、先行研究の問題点も指摘したい。

### 2.1 移動表現の分類

Talmy (1985, 2000) の空間移動の類型論では、言語を衛星砕付け言語と動詞砕付け言語に分類している。衛星砕付け言語では、移動表現の意味要素において、移動 (Motion) と様態 (Manner) が動詞に融合し、経路 (Path) が衛星 (Satellite) によって具現化する。動詞砕付け言語では、移動と経路が動詞に融合し、様態、原因が共事象 (co-event) として表現される (Talmy 2000: 220)。

まず、移動の構成要素と動詞における語彙化 (lexicalization) について説明する。

移動が成立するためには、基本的な四つの構成要素として、移動、移動物 (Figure)、移動あるいは位置する場所である基準物 (Ground)、移動物が移動した経路がある (Talmy 1985: 60-61)。また、これとは別に、砕付け現象に対して補助関係を持つ共事象である様態と原因がある (Talmy 200: 220)。以下は、Talmy (1985: 61; 2000: 26) がこれらの要素を説明するために挙げた例である。

Manner:

Cause:

motion: (1) The pencil rolled off the table. (2) The pencil blew off the table.

location: (3) The pencil lay on the table. (4) The pencil stuck on (to) the table (after I glued it).

(Talmy 1985: 61; 2000: 26)

上で示した四つの例では、移動の基本的な構成要素として、pencil が移動物で、the table が基準物で、off と on は経路である。その中で、off は移動する経路で、on は位置を表している。例 (1) の動詞 rolled と例 (2) の動詞 blew は移動を表しているのに対して、例 (3) の動詞 lay と例 (4) の動詞 stuck は位置を表している。様態と原因は共事象と見なされている。例 (1) の動詞 rolled と例 (3) の動詞 lay はそれぞれ移動の様態と位置も表しているのに対して、例 (2) の動詞 blew と例 (4) の動詞 stuck はそれぞれ移動の原因と、位置することを表している (Talmy 1985: 61; 2000: 26)。動詞 rolled は移動とその様態を両方含んでいる。このように、複数の要素が一つの動詞に融合することができる。Talmy (1985: 61) はこのように、一つの動詞の中に複数の意味要素が含まれていることを語彙化と呼んでいる。

次に、語彙化による言語分類について説明する。Talmy (1985: 62-74) は、以上で説明した語彙化に基づいて、動詞語根 (verb root)、つまり、主要部が、移動表現において、移動に関する要素である移動、様態、経路、移動物などの中で、どの構成要素が特徴的 (characteristic) に語彙化するかに

よって、以下のように、世界の言語を三つの語彙化タイプに分類した。

一つ目のパターンは、英語や中国語のように、動詞の中では、経路の要素が動詞に融合されておらず、移動にとっては必要ではない経路以外の構成要素が動詞に融合し、移動を修飾しているものである。中核的スキーマである経路は衛星によって表す (Talmy 2000: 220)。Talmy (2000: 28) が挙げた英語の例を見ることにする。

(5) I ran/limped/jumped/stumbled/rushed/groped my way down the stairs. (Talmy 2000: 28)

例 (5) では、run (走る)、limp (よたよたと歩く)、stumble (躓く)、jump (跳ぶ)、rush (急ぐ)、grope (手探りで進む) という動詞は移動とその様態を融合しているのに対して、経路は衛星である前置詞の down で表している。つまり、(5) を見ると、英語は衛星枠付け言語に分類される。

同様に衛星枠付け言語に分類される中国語の例を以下の例 (6) で見てみる。

(6) 从 楼梯 上 跑 下 来 一 个 人。

from stairs on run down come one person

「階段から、人が走って降りて来た。」

(Lamarre 2003: 3)

例 (6) では、移動とその様態が「跑」(走る) という動詞に融合しているのに対して、経路は衛星と見なされている複合方向補語「下来」(降りて来る) で表されている。「下」と「来」はいずれも動詞にみなされていない。Talmy によると、動詞に融合した要素が、移動と、共事象としての様態 (あるいは原因) で、経路は動詞に含まれず、複合方向補語と呼ばれている衛星によって表される言語が衛星枠付け言語に分類される。

Talmy (1985: 102) は衛星について以下のように説明する。

(7) ... satellites are certain immediate constituents of a verb root other than inflections, auxiliaries, or nominal arguments. They relate to the verb root as periphery (or modifiers) to a head.

(Talmy 1985: 102)

衛星は動詞語根の直接構成素で、屈折、助動詞、名詞的項ではない。衛星と動詞語根との関係は、周辺部 (あるいは、修飾語) の主要部にする関係と同じである。

つまり、例 (5) の run などの様態動詞は動詞語根で、down は衛星として動詞 run に対しては周辺部 (あるいは、修飾語) の関係にあると考えられる。

しかし、英語の中にも enter, exit など、経路と移動が動詞に融合し、動詞枠付け言語の特徴を持っている構文があるが、これらはロマンス語からの借用語であると Talmy (1985: 72) は説明した。ロマンス諸語は動詞枠付け言語に属し、経路の意味が移動動詞の中に融合するのが特徴である (Talmy 2000: 52)。つまり、何らかの原因で、衛星枠付け言語に分類された言語でも、動詞枠付け言語の特徴をもつ例外的な例があるということになる。

二つ目のパターンは、日本語のように移動の中で、中核的スキーマである経路と移動は動詞に融合するのに対して、様態や原因などの共事象は一つの文の中で表される場合、独立した構成要素として表されるパターンである。



语得到趋向动词。」(趋向補語は動詞と形容詞の後に付き、動作の方向を表している) という。

中国語の移動表現では、「単純方向補語」と「複合方向補語」の二種類の方向補語がある(刘 1998:1)。「単純方向補語」と「複合方向補語」は、それぞれ漢字一文字で方向を表す補語と漢字二文字で方向を表す補語のことである。刘(1998:1)によると、単純方向補語には、「来」(来る)、「去」(行く)、「进」(入る)、「出」(出る)、「上」(上がる)、「下」(下る)、「回」(戻る)、「过」(渡る)、「起」(起きる)、「开」(去る)、「到」(着く)がある。また、複合方向補語には、「进来」(入って来る)、「进去」(入って行く)、「上来」(上がって来る)、「上去」(上がって行く)、「回来」(戻ってくる)、「回去」(戻って行く)、「出来」(出てくる)、「出去」(出て行く)、「下来」(降りてくる)、「下去」(降りて行く)、「过来」(こちらに来る)、「过去」(あちらに行く)、「起来」(起きてくる)、「开来」(ピンと伸びてくる)、「开去」(ピンと伸びて行く)、「到...来」(...に来る)、「到...去」(...に行く)がある。合わせて、28種類の方向補語がある。

中国語にある各種類の移動表現を以下で、具体例をあげることで説明する。まずは、動詞単独で移動を表す例文を以下で示す。

- (10) 年轻人 摇摇晃晃 地上 了 车。(BCC)  
 young people rickety MOD get on PFV vehicle  
 「若者がふらふらと車に乗った。」

例(10)では、様態を表す動詞がないが、オノマトペである「摇摇晃晃地」(ふらふらと)が様態を表しているのに対して、動詞である「上」(乗る)は経路を表し、移動の概念も含まれている。このような移動構文では、様態を表す動詞がなく、経路が主動詞によって表されるため、Talmyの観点と違い、動詞枠付け言語の特徴を表していると言える。

次に示すのは様態動詞と単純方向補語で移動を表す文である。

- (11) 两人 蹑手蹑脚 地 走 进 主 卧室。(BCC)  
 two people restrict hand restrict foot MOD walk enter main bedroom  
 「二人が抜き足差し足で、主寝室に歩いて入った。」

例文(11)では、様態を表す動詞「走」(歩く)、その様態を修飾するオノマトペ「蹑手蹑脚地」(抜き足差し足で)、そして、経路を表す単純方向補語「进」(入る)で構成された移動表現の例文である。

次に様態動詞と複合方向補語で移動を構成する文を示す。

- (12) 舒欣 提 着 一个 大包 急冲冲 地 跑 进 来。(BCC)  
 ShuXin carry with one big bag rush MOD run enter come  
 「舒欣は、大きなカバンを一つ持って、急いで走って入ってきた。」

例(12)は、様態を表す動詞「跑」(走る)、その様態動詞を修飾する副詞「急冲冲地」(急いで)、経路を表す複合方向補語「进来」(入ってくる)で構成された移動表現である。

以上で示したのは中国語の移動表現における様々な表現パターンである。まず、様態の要素が含まれていない動詞を修飾する例を(10)で見た。例(10)は様態がオノマトペで、経路が主動詞によって表される移動表現である。さらに、例(11)と例(12)のように、オノマトペ、副詞で様態動詞を修飾し、単純方向補語や複合方向補語で経路を表す表現方法がある。

### 2.3 中国語の分類に関する先行研究

中国語の移動表現は、研究者によって、様々な分類がなされている。中国語の移動表現の分類に関する先行研究では、三つのアプローチからの研究がある。一つ目が Talmy (1985, 2000) が主張している中国語を衛星枠付け言語に分類するアプローチである。二つ目が, Slobin (2004) と Chen 他 (2009) が主張している中国語を均等枠付け言語に分類するアプローチである。三つ目が, Beavers 他 (2010) と Lamarre (2003, 2007) が主張している中国語は衛星枠付けと動詞枠付け両方の特徴を持っているアプローチである。

Talmy (1985, 2000) は、中国語は衛星枠付け言語に属していると主張している。Talmy (1985: 62) では、中国語は印欧語（ロマンス語を除く）、特に英語と同じ、移動と様態/原因が動詞に融合し、語彙化していると主張されている。

Slobin (2004) と Chen 他 (2009) は中国語が均等枠付け言語に属すると主張している。まずは Chen 他 (2009) の主張についての説明である。Talmy の類型論において、最も基本で、本質的な判断基準は、どの意味要素が主動詞に融合するかである。しかし、この類型論では、それ以外の側面から考察することがある。Chen 他 (2009) は、移動に関する語彙の豊富さについて考察している。Chen 他 (2009) は 9 冊の中国語の小説を分析対象として、中国語を衛星枠付け言語である英語と、動詞枠付け言語であるトルコ語と対照し、小説の中で使用された移動動詞のトークンの数、移動動詞の構造、基準物についての描写、様態の代わりになる表現の四つの側面から考察した。Chen 他 (2009: 1759) は、Özçalışkan 他 (2003) によって明らかになった、衛星枠付け言語での様態動詞の種類が動詞枠付け言語より多いという傾向を理論的根拠として、次のように主張した。つまり、先行研究で英語とトルコ語を分析して得た様態動詞の種類に関するデータに基づくと、中国語の移動表現で使われた 41 種類の様態動詞は、数としては、様態動詞が 64 種類もある衛星枠付け言語である英語と 26 種類ある動詞枠付け言語であるトルコ語の中間に位置するという点で、中国語が均等枠付け言語だということである (Chen 他 2009: 1759-1761)。Slobin (2004) も中国語が均等枠付け言語だと主張している。Slobin (2004) は異なる言語の各年齢層の話者が同じ絵本『Frog, where are you?』について、どのように表現するかのデータを収集した。中国語とタイ語のデータを考察した結果、中国語とタイ語での移動表現では、様態も経路も動詞で表し、経路動詞が様態動詞の従属的な存在ではなく、経路動詞が独立で使うことができるので、経路動詞を衛星として扱うことができない。従って、経路を表している動詞は付随的な要素ではない。経路と、様態/原因などの共事象が均等という点で、中国語とタイ語が「均等枠付け言語」であると主張した (Slobin 2004:9)。この点から、Slobin (2004) は中国語を均等枠付け言語と名付けたが、その理由で Chen 他 (2009) と異なっていることになる。

Beavers 他 (2010) と Lamarre (2003, 2007) は三つ目のアプローチであり、中国語が衛星枠付け言語、動詞枠付け言語両方の特徴を持っていると主張している。まずは Beavers 他 (2010) の主張について説明する。Beavers 他 (2010) は Talmy の空間移動の分類の妥当性について、再検討した。英語では enter、exist など、経路が動詞に含まれている表現があるが、Talmy (1985: 72) はそれらが借用語であるからだとして解釈した。しかし、Beavers 他 (2010: 350) が英語、フランス語、ドイツ語の移動を表す語彙を調査した結果、ドイツ語に対応する経路動詞が英語に見られないので、借用語だという解釈には問題があることを指摘した。そこで、Beavers 他 (2010: 331) は新たな見方を提案した。その見方によると、動詞枠付け的な表現法が基本的で、衛星枠付け的な表現法が特殊であるが、大半の言語には、衛星枠付け的表現と動詞枠付け的表現の両方が見られる。また、動詞枠付け的な

表現法しか持たない言語が、衛星枠付け的な表現ができないのは、語彙の空白だということである (Beavers 他 2010: 331)。つまり、中国語は Talmy の言うように単なる衛星枠付け言語ではなく、動詞枠付け言語と衛星枠付け言語両方の特徴を持っていると言える。Lamarre (2003, 2007) は中国語の移動表現を Agentive motion (動作主を伴う運動)、Self-agentive motion (自己運動)、Nonagentive motion (動作主を伴わない運動) の三つの種類に分類した。そのうち、Agentive motion と Nonagentive motion では、様態動詞と方向補語で移動を表すので、衛星枠付け言語の特徴を表している。Self-agentive motion では、様態動詞と方向補語で移動を表す構文があるだけでなく、様態動詞がなく、経路を動詞で表している移動構文もあるので、中国語は衛星枠付け言語と動詞枠付け言語両方の特徴を持っていると Lamarre は主張した。

以上は移動表現の分類と、方向補語と、中国語の分類に関する先行研究とを説明した。Lamarre (2003, 2007) は様態動詞のない移動表現だけ、動詞枠付け言語の特徴を持っていると主張したが、様態のある移動表現でも、経路が移動と共に主動詞に融合しているという点で、動詞枠付け言語の特徴を持っている構文がある可能性を以下で考察したい。

### 3. 完了アスペクト「了」の分布

中国語の完了アスペクトを表す「了」は主動詞に後接することができる要素である。「了」の分布から文の主動詞を確定することができる。この節は、完了アスペクト「了」の分布から様態動詞と方向補語のいずれが主動詞として機能するかを考察する。

#### 3.1 「了」の説明

朱 (1982: 209) によると、アスペクト助詞「了」は機能や構造上の特徴の違いに基づいて、使い方が2種類に分けられる。「了<sub>1</sub>」は動作・行為の完了を表し、動詞の後ろにしか現れない。従って、「了<sub>1</sub>」の分布から、主動詞を判断することができると考えられる。「了<sub>2</sub>」は多くは文末に置かれる。文法書によっては、「語気詞」と呼ばれている。「了<sub>2</sub>」は朱によると主に「状況に変化が生じる」ことを表すだけでなく、文を言い切りにし、「語気を表す」使い方もある。さらに、刘ほか (1983: 209-228) では、文末に語気詞である「了<sub>2</sub>」が使われている際に、特別な必要がなければ、動作・行為の完了を表す「了<sub>1</sub>」は一般的に省略されることが指摘されている。それは、語気詞である「了<sub>2</sub>」と動作・行為の完了を表す「了<sub>1</sub>」が同じ機能を果たしているからである。よって、文末に「了<sub>2</sub>」を付けるだけで、主動詞による動作や行為が完了したことを示すことができる。3節では、「了<sub>1</sub>」が省略された場合は考察の対象とせず、「了<sub>1</sub>」が使える場合のみ考察する。ここで考察するのは動作の完了を表す「了<sub>1</sub>」であるため、以下で述べる「了<sub>1</sub>」はすべて「了」で表記する。

完了アスペクト「了」は日本語や英語の動詞の過去形と混同されるが、中国語の「了」は動作の完了に関わりがあるだけで、動作の発生する時間とは関係がない (刘ほか 1983: 209-228)。従って、次のように「了」は過去にも未来にも使える。

- (13) 那个 电影 我 昨天 看 了。  
that film I yesterday watch PFV

「あの映画、私は昨日見ました。」

(刘ほか 1983: 209)

- (14) 明天 下 了 班, 我 带 回 来 吧。(CCL)  
 tomorrow off PFV work I take back come SP  
 「明日、仕事が終わったら、持って帰るね。」

例 (13) は、動詞「看」(見る) の後ろに「了」が付いている。動詞の後ろに付けることで、動作あるいは行為が実現し、完了したことを述べている。そして、「昨天」(昨日) という過去の時間と共起できる。例 (14) が示しているように、「明天」(明日) という未来の時間にも、動作の完了を表す「了」を使うことができる。従って、「了」は過去にも、未来にも使える。次節で、完了アスペクト「了」の分布から、主動詞を考察していく。

### 3.2 「了」の分布の考察

まずは基準物が含まれている例文から見てみる。

- (15) 他 跑 进 了 教室。  
 he run enter PFV classroom  
 「彼は教室に、走って入った。」

- (16) \*他 跑 了 进 教室。  
 he run PFV enter classroom

- (17) 他 进 了 教室。  
 he enter PFV classroom  
 「彼は教室に入った。」

- (18) \*他 跑 了 教室。  
 he run PFV classroom

- (19) 他 跑 了。  
 he run PFV  
 「彼は走った。」  
 # 「彼は逃げた。」

例 (15) では、動詞「跑」(走る) が移動の様態を表し、方向補語「进」(入る) が経路を表し、「教室」が基準物を表している。そして、例 (17) では、様態を表す動詞「跑」(走る) を省略し、「进」(入る) が移動と経路を表している。このような移動表現は、動詞砕付け言語的な特徴を表している。一方、例 (18) のように、様態動詞「跑」(走る) と基準物「教室」を残し、方向補語「进」(入る) を省略した場合は、非文になる。つまり、動詞「跑」(走る) は単独では基準物である「教室」と共起できない。また、例 (19) のように、基準物である「教室」を削除し、動詞「跑」(走る) 単独でなら、文が成立する。このことから、様態動詞「跑」(走る) だけでは、ここでは起点としての基準物である「教室」を認可できないと言える。

様態動詞単独で、基準物がなければ文が成立し、様態動詞だけでは、起点としての基準物を認可できないことを上で示した。邱 (2017: 119-120) が指摘するように、場所を表す基準物「教室」は様態動詞「跑」(走る)によって選択されるのではなく、経路を表す方向補語である「进」(入る)によって選択されていると考えられる。

例 (15) と (17) を比べると、様態動詞「跑」(走る)がなくても文が成立することから、移動の様態を表す動詞「跑」(走る)は基準物である目的語を選択する方向補語「进」(入る)を修飾し、「进」(入る)の付加詞であることが考えられる。

また、例 (15) では、方向補語「进」(入る)の後ろに完了アスペクト「了」を置くことができるのに対して、例 (16) では、様態動詞「跑」(走る)の後ろに完了アスペクト「了」を置くことで、非文になっている。つまり、完了アスペクト「了」は基準物がある場合、方向補語「进」(入る)の後ろにしか来ることができない。このことから、単純方向補語「进」(入る)が主動詞であることが考えられる。従って、例 (15) のような、様態動詞を使用し、基準物を入れた中国語の移動表現は動詞枠付的な特徴を示しているのである。

次は、基準物が含まれていない移動表現を見てみる。

(20) 他 跑 了 进 去。  
 he run PFV in go  
 「彼は走って入って行った。」

(21) \*他 跑 进 了 去。  
 he run in PFV go

例 (20) は、完了アスペクト「了」が様態動詞「跑」(走る)の後ろに来る例である。完了アスペクト「了」を置くことができることで、主動詞が様態を表す動詞「跑」(走る)であることがわかる。「进」(入る)は「去」(行く)と複合し、全体として複合方向補語になる。例 (21) で示しているように、完了アスペクト「了」を方向補語「进」(入る)の後ろに置くと、非文になる。従って、「进」(入る)は動詞ではない。つまり、例 (20) のように基準物がなく、移動物(「他」)、様態動詞(「跑」)と経路(「进」)によって構成された中国語の移動表現の構文は、経路が方向補語で表される点で衛星枠付的な特徴を表していることが分かる。

基準物を含まない移動表現では、様態動詞のほうが主動詞で、方向補語が動詞ではなくなることは、音韻的な証拠からも見られる。朱 (1982: 129) によると、「来」(来る)と「去」(行く)は複合方向補語の二番目の要素として機能する際に、いつも声調のない「轻声」で発音されること。つまり、音韻的に見て主要部ではないのである。

次は、基準物を含む移動表現を見てみる。

(22) \*他 跑 进 去 教室。  
 he run in go classroom

(23) 他 跑 进 教室 去。  
 he run in classroom go  
 「彼は走って教室に入っていく。」

例 (22) は、基準物「教室」を文の最後に置いて、非文になっている。つまり、複合方向補語「进去」(入って行く)が基準物と共に起できないことがわかる。しかし、例 (23) のように、基準物を「进去」(入って行く)の間に入れると、文が成立する。

次は、基準物を含み、完了アスペクト「了」を入れた例を見る。

(24) \*他 在 了 教室。  
he in PFV classroom

(25) \*他 跑 了 进 教室 去。  
he run PFV in classroom go

(26) 他 跑 进 了 教室 去。  
he run in PFV classroom go  
「彼は走って教室に入って行った。」

例 (24) で示しているように、前置詞「在」(~にいる)は「了」と共起できない。例 (25) は例 (23) の様態動詞「跑」(走る)の後ろに「了」つけた例である。例 (25) で示しているように、非文になっている。例 (26) は例 (23) の方向補語「进」(入る)の後ろに「了」をつけた例である。「进」(入る)は「了」と共起できることがわかる。つまり、基準物を含む移動表現では、「进」(入る)は前置詞ではなく、主動詞であると考えられる。

完了アスペクト「了」の分布については、以下のことがわかった。基準物を入れた移動表現では、経路を表す移動動詞に完了アスペクトの「了」が付き(例 (17))、様態動詞と方向補語が組み合わされた場合は、様態動詞ではなく方向補語の後ろに「了」が来る(例 (26))。「了」が一般的に動詞の直後に現れることから考えると方向補語のほうが動詞的になる。これらの場合、経路が動詞的である点で動詞枠付け的であると言える。一方、様態動詞と複合方向補語が共起し、基準物が現れない場合は、方向補語ではなく、様態動詞の後ろに「了」が来る(例 (20))。この場合は様態の方が動詞で表されている。つまり、経路が動詞以外の要素で表されている点で衛星枠付け的であると言える。

この節では、完了アスペクト「了」の分布を見ることで、移動表現の主動詞がどれであるか確定できるということが示した。また、従来方向補語と呼ばれてきた経路も、より慎重な扱いをするべきことがわかる。次の節は否定のスコープから、主要部を考察していく。

#### 4. 否定のスコープ

上の節では、完了アスペクト「了」の分布から、統語的主動詞ないし主要部を考察した。中国語は孤立語であるため、語形変化が生じず、否定を表すような接辞を持たないが、否定副詞を加えることで、否定文を作る。本節では、否定のスコープから主要部の考察を行う。

##### 4.1 否定の説明

金水他 (2000: 129) は否定の文法的特性について、以下のように述べている。

- (27) 文法的否定形式は、[...] 主語と述語からなる最も基本的な（単純な）文では、＜述語否定＝文否定＞であって、主語（属性の持ち主）に述語が表す「動作・変化・状態・特性・質」のような属性が認められない（存在しない）ことを表す。述語の否定＝文の否定になるのは、述語が陳述のセンターとして機能を担っていて、基本的に話し手の主張（新情報）を担う部分であるからである。

(27) を考慮して、一つの文に動詞と思われる語が二つあった場合、否定副詞によって否定されるほうを動詞と考えることにする。

中国語の否定方式は、「不」、「没（有）」、「別」の三つがあるが、以下では「没（有）」を用いた否定文を考えることにする。「没（有）」は出来事の完結を否定する場合に使われる。以下では、「没（有）」のスコープを考察することで、主動詞を確定することにする。

#### 4.2 「没（有）」のスコープの考察

まず、基準物がある例から、「没（有）」のスコープを考察する。

- (28) John 飞 过 了 英吉利海峡。 (Lamarre 2005: 11)  
 fly across PFV English Channel  
 「ジョンはイギリス海峡を飛び越えた。」

- (29) John 没（有）飞 过 英吉利海峡。  
 NEG fly across English Channel  
 「ジョンはイギリス海峡を飛び越えていない。」

- (30) John 没（有）飞 过 英吉利海峡, 但是 飞 过 了 高山。  
 NEG fly cross English Channel but fly cross PFV mountain  
 「ジョンはイギリス海峡を飛び越えていないが、高い山を飛び越えた。」

- (31) John 没（有）飞 过 英吉利海峡, 游 过 了 英吉利海峡。  
 NEG fly across English Channel swim across PFV English Channel  
 「ジョンはイギリス海峡を飛び越えていないが、泳いでイギリス海峡を渡した。」

例 (28) の肯定文に否定の副詞「没（有）」を入れると、例 (29) になる。この例は、ジョンはイギリス海峡を飛び越えていないと解釈できる。否定を表す「没（有）」の作用域を考察するため、例 (29) の文に「但是飞过了高山」（「しかし、高い山を飛び越えた」）を続けたのが例 (30) である。例 (30) では、「没（有）」は「飞」（飛ぶ）を否定しているのではなく、イギリス海峡を越えることを否定している。このことから、経路を表す要素のほうが動詞であることが考えられる。例 (31) では、「没（有）」は「过英吉利海峡」（イギリス海峡を越える）を否定しているのではなく、飛ぶことを否定している。このことから、様態を表す「飞」（飛ぶ）が動詞であることがわかる。つまり、「飞」（飛ぶ）と「过」（越える）両方が動詞であることになる。

次に、基準物がない例文を見る。

(32) 我 没(有) 走 进 去。

I not walk into go

「私は歩いて入っていない。」

(33) 我 没(有) 走 进 去, 跑 了 进 去。

I not walk into go run PFV enter go

「私は歩いて入っていない、走って入って行った。」

(34) 我 没(有) 走 进 去, 走 出 去 了。

I not walk into go walk out go PFV

「私は歩いて入っていない、歩いて出て行った。」

(35) 我 没(有) 走 进 去, 站 着 没 动。

I not walk into go stand MOD NEG move

「私は歩いて入っていない、立って動いていない。」

例(32)は、「教室」や「英吉利海峡」(イギリス海峡)のような基準物がない例文である。この例文で、「走」(歩く)はVendler(1957)の言う活動(activity)動詞で、様態を表している。「进去」(入って行く)は経路を表している。「走进去」(歩いて入って行く)は達成(accomplishment)の意味を表している。例(33)では、「进去」(入って行く)を否定しているのではなく、様態を表す「跑」(走る)を否定していることがわかる。例(34)では、「走」(歩く)を否定しているのではなく、「进去」(入って行く)を否定していることから、「进去」(入って行く)は動詞であることが考えられる。また、例(35)のように、「走进去」(歩いて入って行く)全体を否定することもできる。これらのことから、「没(有)」が「走进去」(歩いて入って行く)全体にかかっていることになり、否定のスコープでは主動詞を判断できない。

本節では、方向補語が否定のスコープに収められ、否定されることから、先行研究では、動詞と考えられていなかった方向補語が動詞である可能性があることがわかった。

## 5. 疑問文に対する応答

この節では、影山(2013: 10-11)の日本語における複合動詞の意味の中心を診断する方法を参考にし、中国語の移動表現における意味の中心を考察する。影山(2013: 10-11)の診断方法とは、複合動詞を含む文を疑問文にして、その答えとして、省略できるほうの動詞は意味の中心ではないというものである。換言すると、複合動詞で意味の中心になるほうの動詞だけで答えることが可能であり、意味の中心ではないほうに置き換えると、不可能あるいは不自然な答えになるのである。このことを中国語の移動表現の例で考えみよう。

(36) 在 暴风雨 中 漂 出 去。 (BCC)

in storm inside drift go out go

「嵐の中で流れ出て行く。」

- (37) 在 暴风雨 中 漂 出 去 了 吗?  
 in storm inside drift go out go PFV Q  
 「嵐の中で流れ出て行ったのか。」

a. 对, 出 去 了。  
 yes go out go PFV  
 「はい、出て行った。」

b. # 对, 漂 了。  
 yes drift PFV  
 「はい、流れた。」

例 (36) の様態動詞は「漂」(流れる)で、複合方向補語は「出去」(出て行く)である。疑問文は例 (37) になる。例 (37) では、「漂出去」(流れ出て行く)について質問をし、答えとしては、例 (37a) のように様態動詞である「漂」(流れる)を省略し、経路である「出去」(出て行く)だけで答えることができる。逆に (37a) のように経路を省略し、様態動詞である「漂」(流れる)だけで答えることはできない。従って、意味の中心は経路にあると考えられる。

次は、例 (36) と異なり、基準物がある例である。

- (38) 他们 已经 冲 出 城門, 走 上 吊桥 了。 (CCL)  
 they already rush go out gate walk on drawbridge PFV  
 「彼らはもう城門から飛び出して、吊り橋に歩いて上がった。」

- (39) 他们 冲 出 城門 了 吗?  
 they rush go out gate PFV Q  
 「彼らは城門から飛び出したか？」

a. 对, 出 了。  
 yes go out PFV  
 「はい、城門から出た。」

b. # 对, 冲 了。  
 yes rush PFV  
 Lit. 「はい、駆けた。」

例 (38) では、コンマの前と後ろに二つの動作があり、コンマの前の動作には様態動詞「冲」(駆ける)と方向補語「出」(出る)がある。この部分の疑問文は例 (39) になる。「冲出城門」(城門から飛び出す)について質問をし、答えとしては、様態動詞である「冲」(駆ける)を省略し、経路とである「出」(出る)だけで答えることができる。逆に経路を省略し、様態動詞である「冲」(駆ける)だけで答えることは不可能、あるいは不自然になることから、意味の中心は経路にあると考えられる。

本節では疑問文に対する応答から意味の中心を考察した。基準物がない疑問文でも、基準物がある場合でも、経路のほうが意味の中心であることがわかった。

## 6. 中国語と日本語、英語との対照

日本語と英語の移動様態と基準物で構成した文を見てみる。

(40) He ran to the station.

(41) ?彼は駅へ走った。

例(40)の英語は自然な文になっているが、例(43)の日本語「駅へ走った」を現代日本語書き言葉均衡コーパスで検索すると、二つのヒットしかなかった。

(42) 3人は広域公園前駅へ走った。(BCCWJ-NT: OY15\_21879)

(43) それでもちゃんとした道を駅へ走った。(BCCWJ-NT: Lbf2\_00021)

例(41)では人が駅へ走って行くことを表しているが、文としては落ち着きが悪い<sup>4)</sup>。自然な文にするためには、「彼は駅へ走って行った」のように、「駅」を着点にし、経路を表す動詞「行く」を加えないといけないのである。

また、影山(2001: 62)は以下のような例文を挙げている。

(44) a. He ran 200 meters to the station.

b. 彼は駅に(駅へ)200メートル走った。(影山 2001: 62)

例(44a)は、駅が200メートルの先にあり、彼は200メートルを走ったことで、駅に到着したことが読み取れる。すなわち、英語の例文では駅に到着したという結果の意味が含まれている。例(44b)は、彼は駅のほうへ200メートル走ったが、駅に着いたかどうかは述べていない、方向だけを表している(影山 2001: 63)。例(40)に対応する中国語を見てみると、以下の例文になる。

(45) ?他 向 车站 跑 了。

he toward station run PFV

中国語の(45)も日本語の(41)と同様落ち着かない文になっている。また、例(44)のように、距離を表す「200メートル」を入れると、以下の文になる。

(46) 他 向 车站 跑 了 200 米。

he toward station run PFV 200 meters

「彼は駅に(駅へ)200メートル走った。」

例(46)は、移動物「他」(彼)、前置詞「向」(向かって)、基準物「车站」(駅)、様態「跑」(走る)、距離を表す「200米」の要素によって、移動を表している。前置詞「向」(向かって)を使用することによって、駅の方向へ向かうことを表し、動詞は「跑」(走る)という様態を表すものしか使われていない。つまり、距離を表す「200米」を入れることで、中国語は日本語と似て、日本語は助詞「に」

または「へ」によって方向を表しているのに対して、中国語は前置詞でそれを表現している。また、日本語でも中国語と同様、動詞は様態を表すものしか使われていない。

詳しく中国語の様態動詞を見てみると、中国語では、無生物が主語になることができる。一方、日本語の移動表現では、無生物が様態動詞の主語になることは、比喩でない限りできない。

(47) 钟 不 走 了。  
 clock not walk PFV  
 「時計が動かなくなった。/# 歩かなくなった。」

(48) 电表 不 走 了。  
 electric meter not walk PFV  
 「電気メーターが動かなくなった。/# 歩かなくなった。」

例(47)は、主語は「钟」(時計)で、動詞は「走」(歩く)である。中国語は、時計が動かなくなったことを、「走」(歩く)を使って、表現できる。一方、日本語では、「時計が歩かなくなった」は逸脱した表現になる。例(48)では、主語は「电表」(電気メーター)で、動詞は「走」(歩く)である。中国語は、電気メーターが故障して動かなくなったことを、「走」(歩く)を使って、表現できる。一方、日本語では、「電気メーターが歩かなくなった」は逸脱した表現になる。つまり、中国語では、様態動詞の主語の意味役割が動作主だけでなく対象になることもできるのに対して、日本語では様態動詞の主語の意味役割が対象になることは比喩でない限りできない。

以上の考察から、次のことが言える。経路が有界であることが規定された場合、まず、中国語は日本語と同様、様態動詞と基準物だけでは、移動を表す表現としては、落ち着かない文になる。しかし、中国語も日本語も200メートルのような移動の距離を表す表現があれば、落ち着いた文になる。そして、日本語では、主語の意味役割が対象になることはできない。中国語では、それは可能である。

## 7. 結論

本稿は、完了アスペクト「了」の分布、否定のスコープ、疑問文に対する応答をもとに中国語の移動表現の分析を行った。中国語の移動表現には動詞枠付け的な構造と衛星枠付け的な構造がともに見られる。完了アスペクト「了」の分布から、基準物の有無が、移動表現が動詞枠付け的な構造と衛星枠付け的な構造になるかを左右することがわかった。そして、否定のスコープから、様態を表す動詞だけではなく、その補語である経路表現も動詞とみなすべきこと、および疑問文に対する応答から、経路のほうが意味の中心であることが示唆された。

### 注

1) 本稿は2018年に立命館大学言語教育情報研究科に提出した修士論文の一部を加筆修正したものである。本論で用いる略語は以下の通りである。

GEN: genitive

PFV: perfective

Q: question particle

SP: solicitation particle

MOD: modifying particle

NEG: negative

2) Talmy (2000 218) は中核的スキーマ (core schema) について、以下のように定義している。

Either the association function alone or the association function together with the ground entity can be considered the schematic core of the framing event. This will be called the core schema ...The core schema here will then be either the path alone or the path together with the ground object.

3) Talmy に基づいて、「から」は起点で、経路ではない。

4) (41) は人が焦って駅へ向かう状況では使いうるが、その場合、移動手段は足ではなく、タクシーのよなものでもよい。(2019 年度春学期の立命館大学文学研究科の授業「人文学の最前線」での議論より)

## 参考文献

- 影山太郎 (2001) 『日英対照 動詞の意味と構文』大修館書店 .
- 影山太郎 (2013) 『複合動詞研究の最先端 一謎の解明に向けて一』ひつじ書房 .3-46.
- 金水敏・工藤真由美・沼田善子 (2000) 「時・否定と取り立て」『日本語の文法 2』仁田義雄・益岡隆志 (編). 岩波書店 .129.
- Beavers, John, Levin Beth, and Shiao Wei Tham (2010) "The typology of motion expression revisited." *Journal of Linguistics* 46, 331-377.
- Chen, Liang & Jiansheng Guo (2009) Motion events in Chinese novels: Evidence for an equipollently-framed language. *Journal of Pragmatics* 41, 1749-1766.
- Lamarre, Christine (2003) 「汉语空间位移事件的语言表达 - 兼论述趋势的几个问题」『現代中国語研究』5. 朋友書店 . 1-18.
- Lamarre, Christine (2007) The linguistic encoding of motion events in Chinese: With reference to cross-dialectal variation. *Typological studies of the linguistic expression of motion events*, 1. 3-33.
- Özçalışkan, Şeyda, Slobin, Dan I (2003) Codability effects of the expressions of manner of motion in Turkish and English. In: Özsoy, A.S., Akar, D., Nakipooğlu-Demiralp, M., Taylan, E.E., Aksu-Koç, A. (Eds.), *Studies in Turkish Linguistics*. Bogaziçi University Press, Istanbul, pp. 259-270.
- Slobin, Dan Isaac (2004) The many ways to research for a frog: Linguistic typology and the expression of motion events. In *Relating events in narrative: Typological and contextual perspectives*, ed. by Sven Strömquist and Ludo Verhoeven, 219-257. Mahwah, N.J.: Lawrence Erlbaum Associates.
- Tamly, Leonard (1985) "Lexicalization patterns: Semantic structure in lexical forms." In T. Shopen (ed.), *Language Typology and Syntactic Description, Volume III: Grammatical Categories and the Lexicon*, ed. by Timothy Shopen, 57-149. Cambridge: Cambridge University Press.
- Tamly, Leonard (2000) *Toward a Cognitive Semantics, Volume II: Typology and Process in Concept Structuring*. Cambridge, Massachusetts: The MIT Press.
- Vendler, Zeno (1957) Verbs and times. *The philosophical review* 66 (2): 143-160.
- 刘月华 (1998) 「趋向补语通释」北京语言文化大学出版社 .1.
- 刘月华・潘文娉・故鞞 (1983) 『实用现代汉语语法』商务印书馆 . 209-228.
- 邱林燕 (2017) 『中国語結果構文の統語論的研究』北海道大学 .
- 朱德熙 (1982) 『语法讲义』商务印书馆 .

## コーパス :

現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ-NT) <https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>

北京大学中国语言学研究中心 (Center for Chinese Linguistics PKU) [http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\\_corpus/index.jsp](http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp) (略語を CCL にする)

大数据与语言教育研究所 (BLCU Chinese Corpus) <http://bcc.blcu.edu.cn> (略語を BCC にする)

(本学大学院博士後期課程)